

平成 17 年 2 月 1 日作成

ア ス ス 暦 (ホツマツタエの暦の考察) (第 17 号)

瀬見の小川 ホツマツタエ「ゆかりの地」を歩く

吉 田 六 雄

## 鴨長明

「ゆく川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例しなし。」

この文は鴨長明の有名な「方丈記」の一節である。

鴨長明とホツマツタエ文献の年代が違うために、「ホツマツタエ文献」には鴨長明のことは記載されてない。だが鴨長明の生い立ちや和歌を拾っていくと、ホツマツタエにゆかりのある人と云うことがわかってくる。そして、鴨長明は、京都・賀茂御祖神社（下鴨神社）の「糺す森」の中にある「河合神社」の河合神社の神官の家に生まれた。幼少より和歌にすぐれ「後鳥羽院」に見出され、宮廷歌人として活躍したとのことである。

石川や 瀬見の小川の 清ければ 月も流れを たずねてぞすむ

長明

(河合神社・ご由緒の末尾に「河合神社と鴨長明」の説明がある。)

## 瀬見の小川

賀茂御祖神社（下鴨神社）は世界遺産に登録されていて、ご参拝された人達が多いと思う。一の鳥居を抜けて境内に入ると参道の両脇にほんのりとしたニレ科の並木林が続く。しばらく歩くと参道の両側に川が見える。川の両側は、芝に囲われていた。川幅は、約 90 cm 程度であろうか。川面は「水面に太陽の光があたりキラキラと照り返しており、綺麗な浅瀬の川」であった。

案内板に「瀬見の小川」の説明がある。今までホツマツタエ文献に記載の「瀬見の小川」の言葉に気づいていたが、この川が賀茂御祖神社（下鴨神社）の糺す森にあるとは想像にもできなかった。そのためにホツマツタエ文献にも記載の「瀬見の小川」を急遽、探索することにした。

川の流は「社」方向より「一の鳥居」方向に流れている。そのために今来た参道に戻ると、右手に林が切れ「瀬見の小川」の流れを望めることができた。小川に架かる「小さな太鼓橋」の中央より「小川の流れ」方向を眺めると、ニレの林の木が約 2 m の間隔になっていた。その中央部を「小さな瀬見の小川」が流れていた。この川の景色がなんとも云えない余韻を残した。

この「瀬見の小川」に古代より多くの人たちが心を休め、ある人は「和歌」を歌い、ある人達は「・・・」と思うと「悠久の歴史」を感じてしまう。

そんな「瀬見の小川」について、ホツマツタエ文献(直訳文)は、

10アヤ(紋) 45～46

勅り	賜ふヲシテは
子守神	瀬見の小川に
禊ぎして	茅の輪に糺す
水無月や	民永良うらふる
祓いなりけり	

そんな下鴨神社の相殿の一つに、ホツマツタエ文献を立証している様な相殿を目にすることができる。その相殿は、オシデと名付けられていた。

(おわり)